

## リレー・フォー・ライフ 報告書

久喜総合病院 眞壁 耕平

2014年9月13日（土）～14日（日）の2日間、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014川越に埼玉県診療放射線技師会として参加してきました。公益委員と第三支部である埼玉医科大学総合医療センター、埼玉医科大学国際医療センター、埼玉医科大学病院を中心とした約50人の協力を得て、無事24時間タスキを繋ぐことができました。



夜にはサバイバー（がん患者さんをこう呼んでいます）や家族の思いが書き込まれた灯籠で道が作られ、またがんにより命を落とされたサバイバーを追悼するエンプティータブル等のイベントがありました。どれも一見綺麗に見えますが、感慨深いもので、その場にいる者しか味わえない、最も印象に残る場面でした。



本年度も昨年同様にかき氷、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣りの催しを行い、好天に恵まれ大盛況となりました。



また日中の晴天とは異なり 20時から1時間程、視界を遮るようなゲリラ豪雨に襲われ、リレーウォークは一時中断してしまいましたが、その後は無事再開することができました。中断中には第三支部支部長の渡部さんよりかき氷が配られ、非常に寒い中でかき氷を食べるといった経験もすることができました。



深夜には懇親会と称した、プチ宴会を行い、普段あまり関わる事が無い病院の方々とお話をさせていただき、楽しい時間を過ごしました。これもイベントの醍醐味であるのかもしれません。

2日目はリレーウォークを12時半まで行い、最後は参加者全員の一斉ウォークで13時となり、

無事完歩することができました。

昨年は、台風の影響で行えなかった閉会式を、2年ぶりに行うこともでき、サバイバーや実行委員のやりきった雰囲気は印象的でした。

今回このようなイベントに初めて参加することで非常に良い経験ができました。

また私は、普段放射線治療を担当しており、がん患者さんと接する機会が多いため、今回の経験を活かし、患者さん一人一人の気持ちを理解した上で放射線治療に携わりたいと思います。

ぜひ、来年度もリレー・フォー・ライフ・ジャパンに参加をしたいと思いますので、興味がある方は一緒に参加しましょう！



## 平成 26 年度 MRI 基礎講習会の開催報告

学術委員会理事 栗田 幸喜

「専門技術者認定試験から学ぶ MRI の基本知識」として、11 月 16 日（日）にさいたま赤十字病院の 5 階会議室にて平成 26 年度 MRI 基礎講習会を行った。当日、若干のキャンセルがあったものの、26 人の受講で昨年より 14 人を上回る人数であった。参加者からは「目的が特化しているため解説に無駄がなく、迷わず答える訓練になる、他に類を見ない研修でした。ありがとうございました」などのコメントも聞かれ、MRI 撮影技術の向上に寄与できたかと思っています。受講者ならびに協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

---

### プログラム

---

平成 26 年 11 月 16 日（日）

13:00～13:20	問題Ⅰ 模擬試験「アーチファクト（1）」	
13:20～14:20	問題Ⅰ 解説	済生会川口総合病院 浜野 洋平
14:30～14:50	問題Ⅱ 模擬試験「アーチファクト（2）& 解剖」	
14:50～15:50	問題Ⅱ 解説	埼玉医科大学病院 近藤 敦之
16:00～16:20	問題Ⅲ 模擬試験「基礎問題」	
16:20～17:20	問題Ⅲ 解説	済生会栗橋病院 渡邊 城大
17:20～	質疑応答	

今回は過去に行われた問題からアーチファクトと、基礎的な問題を抜粋し模擬を作成、解説を含めて“試験対策とその基礎知識”を中心にセミナーを企画した。一つのセクションを各自 20 分で解答、その後約 60 分で関連事項含む解答と解説を行った。アーチファクトⅠとして、主なアーチファクト 9 種の特徴や対策を説明し、その後 14 題の問題について解説した。次にアーチファクトⅡ&解剖としてアーチファクトの問題の続きを 5 題、その後 10 題を腹部・筋・靭帯・肩関節領域の解剖を中心に解説した。特に関節や筋肉は理解し難い部位であり参考になったと思われる。最後に基礎問題として第 9 回 MR 認定試験の中から基礎的な部分を抜粋し 16 題を行った。磁気モーメント・SAR・SNR・シーケンス・計算問題など内容は多岐に及んでいた。解答を決めなければならず正解を導くのに苦慮する部分もあったが、難解な問題の解釈も含めて説明したつもりであり、試験対策としては好評であったと思われる。また前回と同様に埼玉県のみでなく近隣の施設から多くの方々が参加をしていた。資料は後日見直すことができるようになりやすく作成したつもりである。アーチファクトに関する問題は必ずと言っていいほど同様の問題が出題されるので、MR 認定試験を受験される方は復習しておくことをお勧めする。この基礎講習会で行っていない範囲として臨床画像があげられる。受講者の意見も考慮し、必要であれば今後も継続していきたいと思う。参加して頂いた方、模範解答を考えて頂いた SMC のメンバーの方、そして当日手伝いをして頂いた役員の方に感謝いたします。（講師代表：渡邊城大）

## 平成 26 年度 第 1 回 DR 計測セミナー開催報告

学術委員会 土田 拓治

平成 26 年 11 月 30 日（日）に済生会川口総合病院におきまして、第 1 回 DR 計測セミナーを開催しました。参加者は 10 人と少なかったのですが、実習形式のセミナーのため非常に分かりやすく有意義であったと好評でした。今後も、実習形式を取り入れた講習会を企画していきますので参加をお待ちしています。またご参加いただいた受講者および講師、スタッフの皆様には感謝を申し上げます。

## プログラム

13:00～14:00	物理特性測定における基礎 土田 拓治 埼玉県済生会川口総合病院
14:10～15:10	実習 1；一般撮影機器における物理特性測定（入出力特性、NPS） 森 一也 埼玉県済生会川口総合病院
15:20～16:20	実習 2；一般撮影機器における物理特性測定（MTF） 滝口 泰徳 上尾中央総合病院
16:30～17:30	実習 3；PC による物理特性解析 大柿 護 EIZO 株式会社 映像技術開発部 ASIC 開発課

我々が扱っている装置の品質管理は非常に重要であり、その責任の所在はユーザーです。特に一般撮影機器に関しては、使用頻度が高いモダリティであるにもかかわらず、メーカー保守契約を結んでいない施設が比較的多いと聞きます。そのため、機器の物理特性を測る能力が問われています。最近では、各学会、研究会などで、DR セミナーと称し、デジタル機器の物理特性（入出力特性・MTF・NNPS・DQE）の解析を簡単に行えるソフトを配布して、我々のレベル向上の一助となっていますが、自施設において解析データのとり方が分からないため、せっかくのソフトが PC に眠ってしまうとの声をよく聞きます。

今回企画した DR 計測セミナーの内容は、実際の撮影機器を用いて、解析データ取得方法を実習形式で構成しました。まず、物理特性を測る上で必要な知識について、IEC 規格（国際電気標準会議）で述べられている標準測定法と、幾何学的配置によるデータ誤差などについて講義しました。実習では、MTF 測定にて、テストデバイスの材質を変化させてデータを取得。半価層、入出力特性、NNPS のデータ取得では、距離や露光量を変化させて X 線出力測定器（空気電離箱）を用いて、IEC 測定法との違いなどを実際に体験することで、高価な試験器具がなくても工夫次第で、安価に測定が可能であることを体験してもらいました。またそれらのデータを PC で解析したことは、物理特性のデータ取得から解析までの流れを理解でき、大きな成果があったと考えます。



## 平成 26 年度 役員研修会報告

総務委員会  
常務理事 平野 雅弥

平成 26 年 11 月 28 日（金）19 時より、大宮ソニックシティ 905 会議室において平成 26 年度役員研修会を開催しました。参加者は理事と各委員会委員および支部役員を含め 26 人で、（公社）日本診療放射線技師会理事の児玉直樹様を講師として招き「今回の診療放射線技師法改正」というテーマで行いました。

今回の診療放射線技師法改正の主な点は、業務範囲の追加として①造影剤の血管内投与に関する業務②下部消化管検査に関する業務③画像誘導放射線治療（image-guided radiotherapy：IGRT）に関する業務です。また業務の位置付けが明確になったものとして、胸部検診及び核医学診断装置を用いた業務が挙げられます。現在、我々診療放射線技師が携わってきたこれらの業務が法的に明確になったことで、現状に沿った内容になっています。この当然と思われる法改正に関し、日本診療放射線技師会では平成 23 年に行った「診療放射線技師の業務実態調査」を基に現状の業務内容の調査報告書を作成し、前掲した個々の業務一つ一つにエビデンスをもった要望書を繰り返し挙げ続けた結果、今回の改正につながったものです。しかし当初は、なかなか議論のテーブルにも挙げられないとのことで、長年にわたる苦勞の結果で成し得たものだと思います。そのため、今回の改正は職能団体である公益社団法人日本診療放射線技師会が主体的な立場で働きかけ、実現できたことは間違いありません。

そこで、我々が次にできることは、今回の法改正を喜んでばかりでなく、責任をもって遂行することができる知識と技術を身に付けることが重要であると感じました。4 月以降、診療放射線技師養成学校教育カリキュラムも業務拡大に伴い 2 単位増え、また現在仕事に就いている方への追加研修講習会も予定されるとのことです。そして全ての診療放射線技師に受講してもらいたいとのことでした。そうすることで、次の改正につなげていくことができます。

講演終了後も講師へ会場から多数の質問があり、関心の高さが感じられました。

今回の研修は、短い時間ではありましたが、我々の業務を法的な立場から見直す良い機会になったと思います。



研修中



会長からの質問